

# つぼみだより

平成 22 年 2 月号 小学部

寒かった日々も少しずつ暖かな陽射しと共に春の訪れを感じられるようになってきました。春を迎えるつぼみは例年の如く慌ただしい・・・こんなに慌ただしいのはつぼみの風物詩なのかとも思いながら、なんだかワクワクしている職員。なぜならつぼみの成長の裏には必ず子どもの成長があるからなのです。頑張ってきた子ども達の姿を確認し今後の目標を立てる時期。今年はこんな姿になって欲しいと願を込めて個別支援計画を立てました。

そして、子ども達もなんだかワクワク・・・頑張ってきた1年が終わりを迎える時期 色々な成長の足跡を残しましたね。結果だけではなく、ここまで頑張ったという姿を十分評価してもらいたいと願っています。



## 今月のすがた



**調理・五感刺激**で取り組んだ手巻き寿司 昨年の取り組みからもう1年。連絡ノートにも去年を思い出します・・・とたくさんの方からお便りを頂きました。子ども達も取り組み内容を十分理解して楽しみながら行う事ができました。興味をしっかりと持ち、殆どの子が注視し、手先の力を加減しながら巻く事ができました。そして何より嬉しそうだったのは、作った物を持ち帰れること・・・お家の方にいっぱい褒めてもらえることも意欲を掻き立てるようです。支払い訓練では買物疑似体験をしました。机上の取り組みではなく実際のお金のやり取りに加えて、商品の自己選択・自己決定をしています。支払いではお金と商品の交換をすることで**買う・払う**をイメージしやすいように形を作りました。ここで**基本療育**で頑張ってきた個数が役立ちます。1個・2個・3個・・・と10円が1個2個で20円 と100円が1個 2個で200円・・・なんだか難しい問題に立ち向かう子どもたち これを理解できたら・・・感覚として捉えてくれたら・・・と職員も思考



錯誤を繰り返しながら取り組みました。ここでは職員自作の療育教材が何度も生まれ消えていくことがありました(笑)。子供たちに少しでも理解しやすい教材を提供していく事が職員の頑張りどころ、子ども達の頑張り常に負けないようにしていきたいと思います。ADL訓練・自活訓練では、衣類の着脱からたたみの取り組みまでを行ないました。療育を2つに分けた事で細かい部分まで取り組めるにしました。ADL訓練では、ボタン・フックなど手先の技術習得を中心に鏡を使って「自分の姿を振り返り気付く」ことにポイントを置き身だしなみまで



を捉えられるようになってきました。自活訓練では、衣類たたみ・タオルたたみを通して技術支援から整理整頓までを捉えられるようになりました。どれもこれも生活していく上でとても大切な事であり、毎日欠かさず行う事・・・生活の基本となる事です。しっかりと動作



を確立していきたいと思います。ひとつひとつが本当に地道な療育ですが、できたことの喜びは子どもたち一人ひとりにあります。この気持ちを持続させながらステップアップを図りたい

と思います。最後に制作活動では、季節に



合わせてお雛様作りをしました。紙やのり

・はさみを使った操作性の分野は大好きな取り組みのようです。利用に入るなり置いてある材料に釘付け・・・30分という長い時間集中して取り組みました。おやつを忘れてしまうぐらい手先の感覚をフルに使い、表情にもやり切ったという満足感を覗かせていましたよ。本当に職員もビックリするぐらいの集中力・持続力と意欲でした。完成には、もう一回の取り組みが残っていますが、満足のいく作品ができあがるようサポートしていきたいです。



## お知らせ

個別支援計画の確認と懇談会を3月末からの春休みに予定しています。後日詳細を配布いたしますのでご確認下さい。忙しい時期とはなりますが、お時間の都合をつけて頂くようお願い致します。

日にち 3月29日(月) 30日(火) 31日(水) 4月1日(木) 2日(金)

時間 15時15分～ 一人15分程度

## kのひとこと

kのひとことで、職員の紹介をはじめたのは、忘れもしないkがヘルニアで入院していたあの時からである。そしてまた、今もkは病室のベッドの上でkのひとことを書いている。いったいいつになったら健康な体になるのか?と自問自答しながら、自暴自棄になるkはあることを思い出す。そう、入院こそが、光陽福祉会発展の時、一回目の入院で、今の建物へ移り、二回目の入院で社団法人光陽福祉会が誕生。そして、TGW株式会社との業務提携。移動支援事業。

kの入院と共に発展する「つぼみ」今回は、そんな入院中に思いついた移動支援事業で、奮闘する移動支援の母であり、孫悟空いや、臼井先生の紹介だ。真面目でスポーツ大好きな臼井先生はヒョウ柄も似合う。あれは、確かつぼみでの臼井先生歓迎会の日、kの斜め前をヒョウが座っていた。そんな、お茶目な一面のある臼井先生は、スパルタ的指導に定評がある。もちろん愛情たっぷりのだ。福祉従事者は楽をしようと思えば簡単に楽が出来る。子どもと向き合うとき「よしよしもういいよ」って言えば、楽でしょ。もちろん、関わり方の技術として、そういう技法を使う場合がある。しかし、臼井先生に妥協や諦めはない。「できるようにしたい。」そう思ったら猪突猛進一直線に進んでいく。それが、臼井先生魅力である。

光陽福祉会にはこんな素晴らしい先生がたくさんいる。だからこそ、このメンバーで新たな事業をスタートさせたい。SPM(スポーツ療法マッサージ)おそらくこの事業は全ての自立の懇願となる。保護者説明会近日開演。